



# トレーニング

デジタル版

## ガイドブック

明治学院大学心理学部教育発達学科 教授

海津亜希子 編著



# 目次

はじめに	2
MIMデジタル版の特長	3

## 第1章

### 個別の配慮計画に基づく MIMデジタル版の活用方法

1 ケース1	6
2 ケース2	7
3 ケース3	8
4 ケース4	9
5 ケース5	10

## 第2章

### トレーニングの操作方法

1 トレーニングの始め方と終わり方	12
2 ことば絵カード（特殊音節）	13
3 聴くトレーニング（特殊音節）	18
4 書くトレーニング（特殊音節）	20
5 促音トレーニング（特殊音節）	23
6 さんかくシート（特殊音節）	25
7 総合トレーニング（特殊音節）	27
8 ことばさがし（かたまり読み・語彙拡大）	29
9 はやくちことば（かたまり読み・語彙拡大）	31
10 これ、知っている？（かたまり読み・語彙拡大）	33
11 総合トレーニング（かたまり読み・語彙拡大）	35
12 キャラクターの成長について	37
13 カルテ	40
14 児童の「自習モード」	44
15 児童の学習履歴のクリア	47

# はじめに

MIMデジタル版は、平成26年度より文部科学省の委託（障害のある児童生徒の学習上の支援機器等教材開発事業）を受け、研究を行ってきた「読みにつまずきのある子ども向けアセスメント・指導モデルの開発」の成果をもとに作成されました。

開発にあたっては、MIMの実践を豊富に積まれている先生方をメンバーに迎え委員会を組織し検討してきました。さらには、MIMデジタル版の実証協力校ならびに自治体のご協力により、実際に使用して頂いたご意見をもとに改良を重ねてきました。

「多層指導モデルMIM 読みのアセスメント・指導パッケージ」が世に出て5年が経ちます。その中で、多くの学校が抱える課題として、「読みにつまずきのある2ndステージや3rdステージ指導を要する子どもへの指導をいかに実施していくか」ということが挙げられました。本来MIMでは、こうしたつまずきのある子どもへ指導効果を届けることこそ最大の目的とされていますが、それらが成し遂げられずにいる現状が浮かび上がってきたのです。その背景には、指導環境の問題（誰が、いつ、どこで、どのように指導にあたるのか）がありました。

今回、このMIMデジタル版を活用することで、そうした難しい課題を解決する一手になるのではないかと期待しています。先生が直接的に子どもに指導する部分と、子どもがタブレット端末等を活用し、自分自身で学ぶことができる部分とを合わせることで、2ndステージや3rdステージ指導がより実施しやすくなると考えています。

ただし、「このデジタル版を子どもに渡せば読みの力が向上する」と考えるのは誤りです。あくまでも、先生が子どもにまずは直接的に大切なポイントを伝え、子どもが理解を深めるために、「楽しく、繰り返し、学習する」ツールとしてデジタル版を活用してこそ、効果が見込まれると考えています。

MIMデジタル版を使用する前に、まずは指導する側が、「様々なニーズのある子どもへ対応すること」「つまずく前に支援すること」といったMIMの理念とともに、「特殊音節」を含めた読みの流暢性の指導の重要性を認識することが不可欠です。

今回開発されたMIMデジタル版を単なる特殊音節の学習ツールとして使うか、それとも、通常の学級における多層指導モデルMIMを実現させるための一部として使うかによって、該当の子どもだけでなく、クラス全体の効果までも異なってくると考えます。

ぜひとも、より広く、より深い効果をめざし、多層指導モデルMIMを成就させる一つのツールとしてMIMデジタル版をご活用頂ければ幸いです。

最後になりますが、文部科学省の委託事業は平成28年度まで続きます。今後は、通常の学級における多層指導モデルMIMの効果をより多くの学校で実感して頂けるよう、MIMのアセスメントであるMIM-PM（「めざせよみめいじん」）のデジタル化と、アセスメント結果をサーバーで履歴管理できるようなシステム開発に取り組んでいく所存です。これが実現できれば、通常の学級の子どもの一人ひとりの学びの様子を瞬時に把握でき、支援を必要としている場合にはすぐにも対応できる、質の高い指導提供の可能性が増すと考えています。

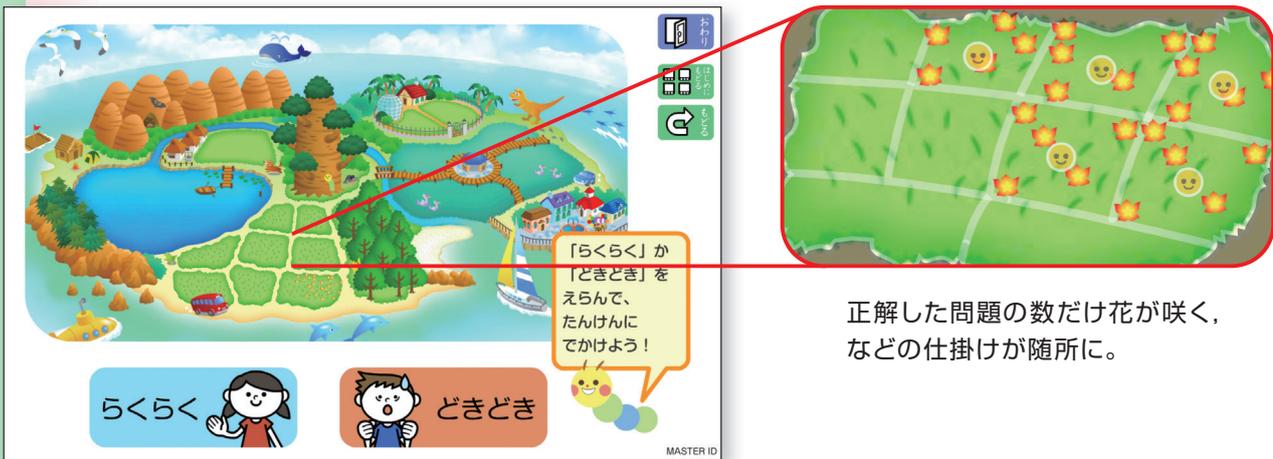
先生方が子どもたちの豊かな学びのために日々ご尽力されていることを想い、今後とも研究という立場から少しでもそのお手伝いができればと切に願っております。

2016年3月吉日 海津亜希子

# MIMデジタル版の特長

- おもに2nd, 3rdステージ指導対象児童等の小集団・個別指導において、指導者の個別対応への時間等、指導環境の確保が難しいときでも、指導の提供を可能にします。具体的には、対象児童に対し、指導者による直接的な対応（説明）の後、デジタル版を活用した課題に挑戦することで、個々のつまずきに対応した学習を独学に近い形で実現することができます。
- 児童にとっては「苦手」な課題であっても、「スモールステップで課題が設定されていること」「解けない場合でも視覚化や動作化、音声化等、多感覚なヒントが用意され、必要に応じて用いることができること」「達成度が確認でき、モチベーションの向上が期待できる仕掛けが用意されていること（図1）」等、着実に課題が達成できるように導いていきます。
- MIM-PMのアセスメント結果に基づいた個別の配慮計画での児童のつまずきに合わせ、教材を提示します。
- MIMデジタル版のメニュー画面の左側が、おもにMIM-PMのテスト①のつまずきに対応したトレーニング（特殊音節トレーニング）、右側がMIM-PMのテスト②のつまずきに対応したトレーニング（かたまり読み・語彙拡大トレーニング）で構成されています。（図2）

【図1】 トレーニングをクリアするごとに仮想の島に変化が occurs します。



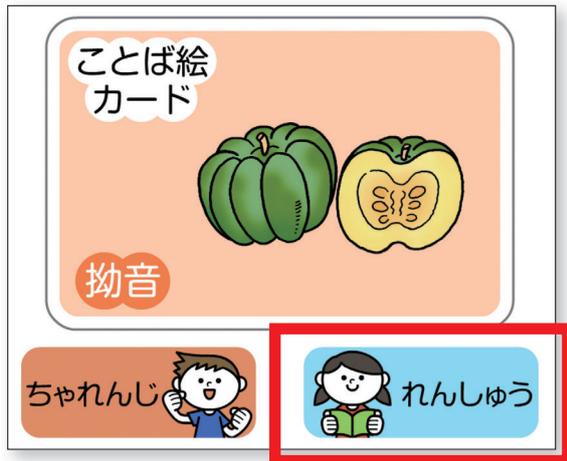
正解した問題の数だけ花が咲く、などの仕掛けが随所に。

【図2】 苦手なトレーニングを克服すると、キャラクターが成長します。



MIM-PMの  
テスト①に対応。

MIM-PMの  
テスト②に対応。

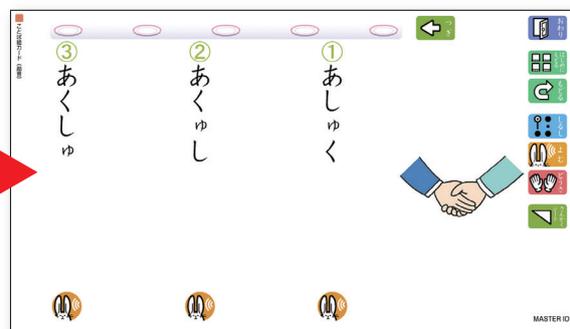


- 使い方がわからないときは、「れんしゅう」を実行します。1問だけ練習問題を体験することができます(図3, 図4)。

【図3】



【図4】



- トレーニングの難易度は「らくらく」コースと「どきどき」コースに分かれています。  
「どきどき」コースは主に1stステージ指導対象のトレーニングで構成されています。問題数が多く(10問×10回), 読みの定着をめざします。  
「らくらく」コースは主に2nd, 3rd

- ステージ指導対象のトレーニングで構成されています。問題数は負担のないよう, 少な目(5問×10回)に設定しています。また, 視覚化や動作化等による多感覚なヒントが用意されており, 特殊音節表記ルールの確認や確実な習得をめざします。  
(図5)

【図5】



第 1 章

# 個別の配慮計画に基づく MIMデジタル版の 活用方法



# ケース 1

【注意】1年生は「カタカナ」は入っていません。以降同。

テスト①							テスト②						
清音	濁音・半濁音	長音	促音	拗音	拗長音	カタカナ	清音	濁音・半濁音	長音	促音	拗音	拗長音	カタカナ
		■	■	■	■				■	■	■	■	

## 対象・傾向

2ndステージ指導対象の児童。

■（つまずきを示す印）がテスト①，テスト②の両方にみられる。

## 推定されるつまずきの要因

- ①特殊音節表記のルールが理解できていない。（テスト①でのつまずき）
- ②語をまとまりで捉えられていない。（テスト②でのつまずき）
- ③語彙が少ない。（テスト②でのつまずき）
- ④読むのが遅い。（テスト①，テスト②でのつまずき）

## 対応

まずは、テスト①に対応した「特殊音節トレーニング」から実施します。なぜなら、テスト②を解く上でも、まずは特殊音節表記のルールを理解することが必要だからです。そのなかでも■がついている特殊音節トレーニングを中心に組みます。次に（あるいは特殊音節トレーニングと並行して）、テスト②に対応した「かたまり読み・語彙拡大トレーニング」を実施します。

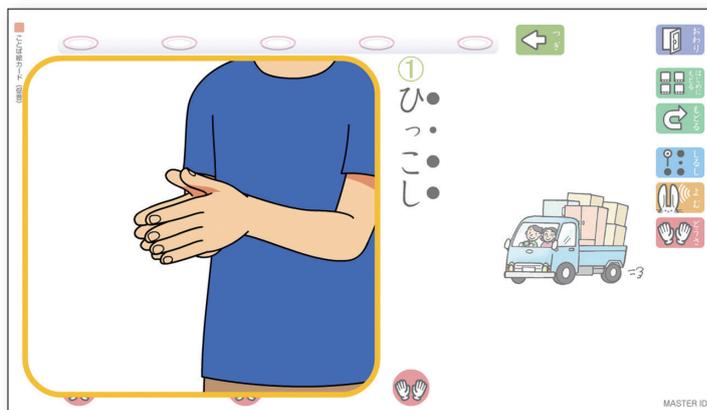
ケース1では、「長音」「促音」「拗音」「拗長音」に対応した特殊音節トレーニング、さらには「ことばさがし」「はやくちことば」「これ、知っている？」を実施します。（赤く囲んだ部分）



## 実施レベル

まずは「らくらく」コースから始め、次第に「どきどき」コース、「総合トレーニング」へと進みます。「らくらく」コースの問題数は5問、「どきどき」コースは10問あります。各々10回分（ステージ）で構成されています。「らくらく」コースのステージクリアのペースが早いようであれば、「どきどき」コースに移行します。

なお、「ことば絵カード」の「らくらく」コースでは、視覚化や動作化等を通じたルールの確認ができます。



# ケース 2

テスト①							テスト②						
清音	濁音・半濁音	長音	促音	拗音	拗長音	カタカナ	清音	濁音・半濁音	長音	促音	拗音	拗長音	カタカナ
		■	■	■	■		■	■	■	■	■	■	

## 対象・傾向

3rdステージ指導対象の児童。

■(つまずきを示す印)がテスト①, テスト②の両方にみられる。

## 推定されるつまずきの要因

- ①特殊音節表記のルールが理解できていない。(テスト①でのつまずき)
- ②語をまとまりで捉えられていない。(テスト②でのつまずき)
- ③語彙が少ない。(テスト②でのつまずき)
- ④読むのが遅い。(テスト①, テスト②でのつまずき)

## 対応

まずは、テスト①に対応した「特殊音節トレーニング」から実施します。なぜなら、テスト②を解く上でも、まずは特殊音節表記のルールを理解することが必要だからです。そのなかでも■がついている特殊音節トレーニングを中心に取り組みます。次に(あるいは特殊音節トレーニングと並行して)、テスト②に対応した「かたまり読み・語彙拡大トレーニング」を実施します。

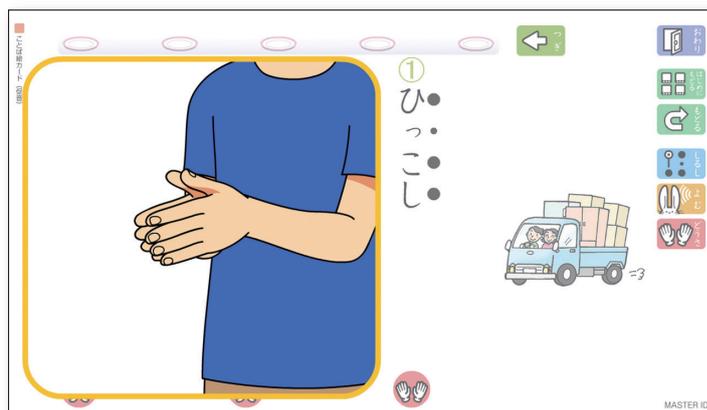
ケース2では、「長音」「促音」「拗音」「拗長音」に対応した特殊音節トレーニング, さらには「ことばさがし」「はやくちことば」「これ、知っている?」を実施します。(赤く囲んだ部分)

また、このようにつまずきが多岐に渡る場合、特殊音節表記ルールの理解の困難さだけでなく、清音や濁音・半濁音についても定着が完全でない場合があるため、これらのトレーニングについてもあわせて検討しておくといでしょう。



## 実施レベル

まずは「らくらく」コースの習得をめざします。「らくらく」コースを1ステージ(5問×10回)クリアしてから、「どきどき」コースに進みます。なお、「ことば絵カード」の「らくらく」コースでは、視覚化や動作化等を通じたルールの確認ができます。



# ケース 3

テスト①							テスト②						
清音	濁音・半濁音	長音	促音	拗音	拗長音	カタカナ	清音	濁音・半濁音	長音	促音	拗音	拗長音	カタカナ
									■	■	■	■	

## 対象・傾向

テスト②のみに■(つまずきを示す印)がついている児童。  
2ndステージ, 3rdステージ指導対象を表すマーカーの色(黄, 赤)は問わない。

## 推定されるつまずきの要因

- ①語をまとまりで捉えられていない。(テスト②でのつまずき)
- ②語彙が少ない。(テスト②でのつまずき)
- ③読むのが遅い。(テスト②でのつまずき)

## 対応

テスト②に対応した「かたまり読み・語彙拡大トレーニング」を中心に実施します。

ケース3では、赤く囲んだ部分のトレーニングを実施します。



## 実施レベル

まずは「らくらく」コースから始め、「どきどき」コース、「総合トレーニング」へと進みます。

「らくらく」コースのステージの習得度合が早いようであれば、「どきどき」コースに移行します。



# ケース 4

テスト①							テスト②						
清音	濁音・半濁音	長音	促音	拗音	拗長音	カタカナ	清音	濁音・半濁音	長音	促音	拗音	拗長音	カタカナ

## 対象・傾向

■(つまずきを示す印)はついていないが、2ndステージ、3rdステージ指導対象を表すマーカーのみがついている児童。マーカーの色(黄, 赤)は問わない。

## 推定されるつまずきの要因

- ①読むのが遅い。(テスト①, テスト②でのつまずき)
- ②テストに臨むスキルが乏しい。(テスト①, テスト②でのつまずき)

## 対応

テスト①に対応した「特殊音節トレーニング」、ならびにテスト②に対応した「かたまり読み・語彙拡大トレーニング」を実施します。

ケース4では、赤く囲んだ部分のトレーニングを実施します。



## 実施レベル

「どきどき」コース, 「総合トレーニング」を通じ, テンポ良く問題に取り組んでいきます。



# ケース 5

テスト①							テスト②						
清音	濁音・半濁音	長音	促音	拗音	拗長音	カタカナ	清音	濁音・半濁音	長音	促音	拗音	拗長音	カタカナ
		■	■	■	■				■	■	■	■	
				■	■						■	■	
					■							■	
					■							■	

## 対象・傾向

クラスとして、特殊音節の苦手さに同様の傾向が見られる。

## 推定されるつまずきの要因

① 特定の特殊音節表記のルールが理解できていない。(テスト①でのつまずき)

## 対応

テスト①に対応した「特殊音節トレーニング」を実施します。なぜなら、テスト②を解く上でも、まずは特殊音節表記のルールを理解することが必要だからです。そのなかでも■がついている特殊音節トレーニングを中心に取り組みます。

電子黒板等を使い、一斉指導として活用することもできます。

上記のケースでは、「拗長音」に対応した特殊音節トレーニングを実施します。(赤く囲んだ部分)  
始めに電子黒板等で問題を例示し、視覚化や動作化のルールを提示しながら解いていきます。その後、各自が問題に取り組みます。

また、拗長音のみに■がついている場合、実際に

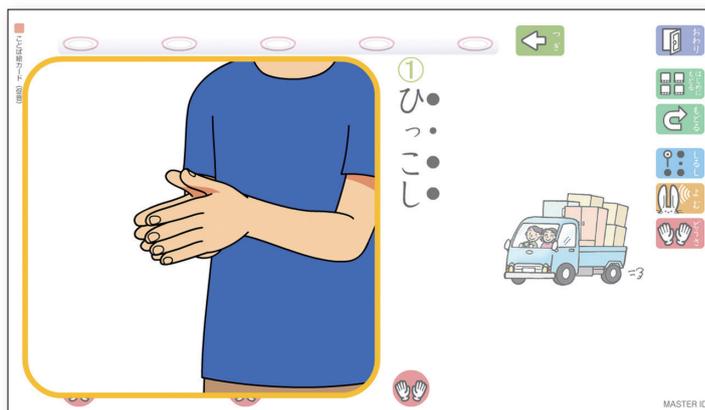


は拗長音と関連する長音や拗音の定着が完全でないケースもあるため、関連する特殊音節のトレーニングも検討するとよいでしょう。

## 実施レベル

■(つまずきを示す印)が認められる特殊音節に関して、まずは「らくらく」コースから始めます。その後、「どきどき」コース、「総合トレーニング」に進みます。

なお、「ことば絵カード」の「らくらく」コースでは、視覚化や動作化等を通じたルールの確認ができます。



第 2 章

# トレーニングの 操作方法



# 1

## トレーニングの始め方と終わり方

トレーニングを実行するには、児童のIDで入ります。

### 操作説明

#### 始め方

**1** 「どちらか えらびましょう」の画面で、MIMトレーニングのアイコンを選びます。



**2** メニュー画面で学習したいトレーニングを選びます。

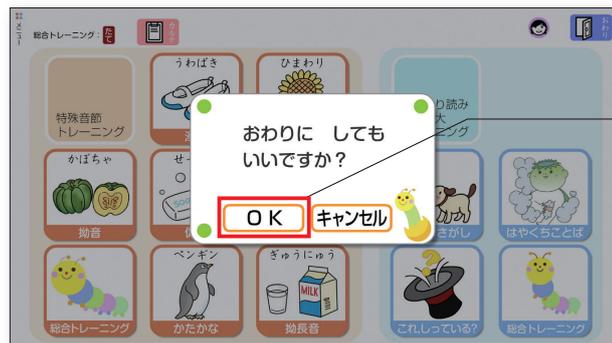


#### 終わり方

**3** 「おわり」 ボタンを選びます。



**4** 確認画面が表示されます。「OK」 ボタンを選びます。



# 2

## ことば絵カード（特殊音節）

清音, 濁音, 長音, 促音, 拗音, 拗長音, かたかなには「ことば絵カード」が入っています。絵を見てあてはまることばを選ぶトレーニングです。

### 操作説明

**1** トレーニングしたい特殊音節を選びます。

(画面は「促音」の例)



1

**2** 「ことば絵カード」を選びます。



2

**3** 操作方法がわからなければ、「れんしゅう」を選びます。



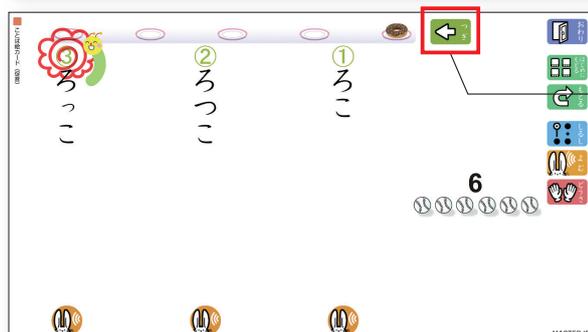
3

**4** 「れんしゅう」では、問題を1問試すことができます。「スタート」ボタンを選びます。



4

**5** 問題を解き、「つぎ」ボタンを選びます。



5

**6** もう一度練習する場合は「もういちど」を選びます。再度、練習問題が表示されます。

練習しなくてもいい場合は「やめる」を選びます。



**7** トレーニングを始めたいときは、「ちゃれんじ」を選びます。



**8** 「らくらく」あるいは「どきどき」を選びます。



## Pポイント

ステージごとに「らくらく」は5問、「どきどき」は10問の問題が用意されています。

「らくらく」はおもに2nd・3rdステージの児童に提示し、「どきどき」はおもに1stステージの児童に提示することをお勧めします。

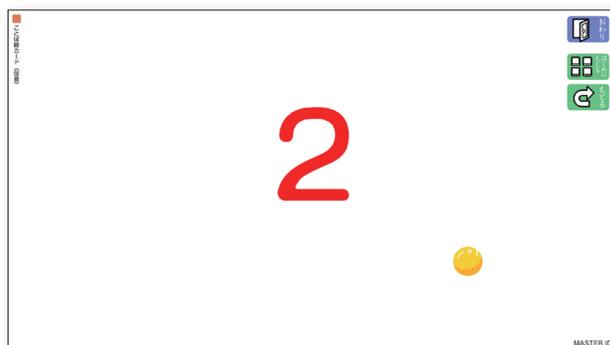
以下、「らくらく」の画面を例に説明します。

**9** チャレンジするステージ（画面の中のマス目でわかれたエリア）を選びます。

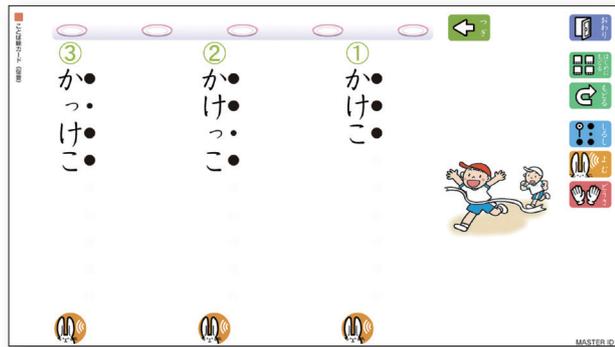
ステージは全部で10あります。



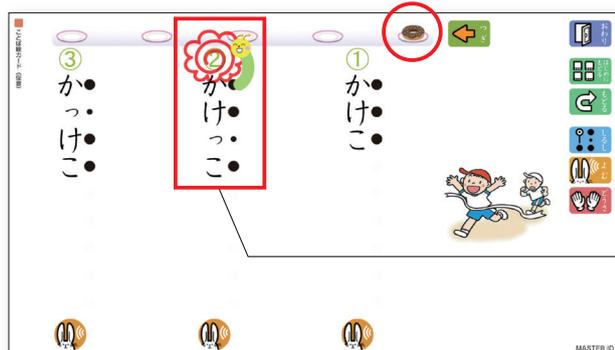
**10** カウントダウン画面が表示されます。



**11** 問題が表示されるので、正しいと思う答えを選びます。

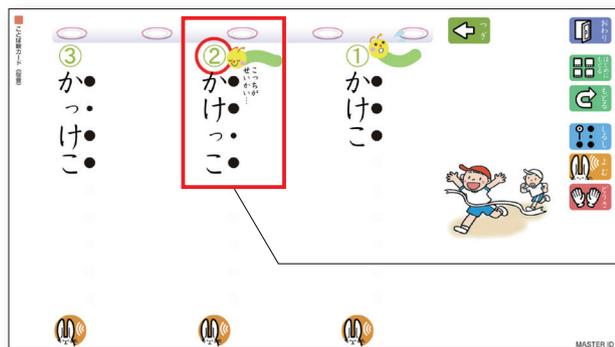


**12** 正解すると、花まるマークがつけられます。また、ドーナツのアイコンが表示されます。



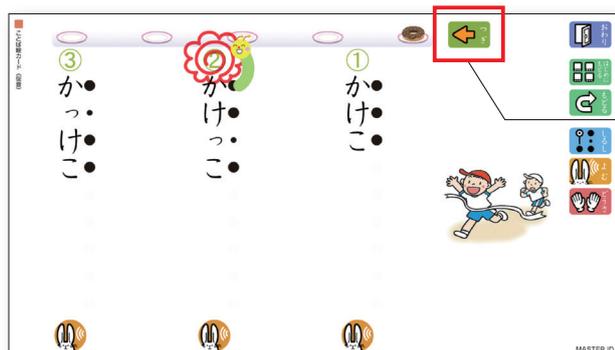
12

**13** 答えがまちがったときは、正解が示されます。



13

**14** 問題を解答したら、「つぎ」ボタンを選びます。



14

**15** 1つ前の画面に戻るときは、「まえ」ボタンを選びます。



15

**16** 問題を全問正解すると、「クリアー」と表示されます。

「つぎ」ボタンを選びます。



16

**17** 成績画面が表示されます。「はじめにもどる」を選ぶと、メニュー画面に戻ります。



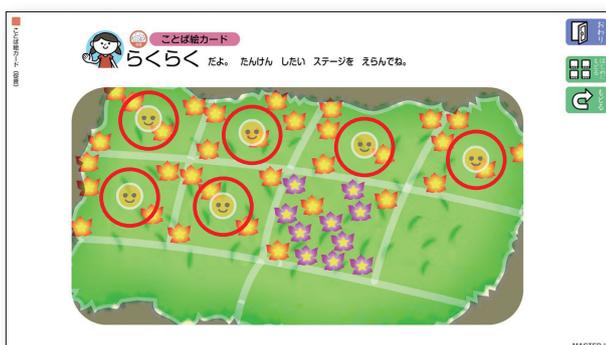
17

**18** 不正解があった場合、「もういちど」「ミス問」ボタンが表示されます。「ミス問」ボタンを押すと、不正解の問題を確認することができます。「もういちど」ボタンを押すと、再度全問チャレンジすることができます。



18

**19** 全問クリアしたステージには、「ニコニコマーク」が表示されます。



**20** 「時間」ボタンを押すと、問題を解くのにかった時間がわかります。



20

**21** かかった時間によって、「新米」「しゅ行中」「名人」「大名人」に分けられます。

「とじる」ボタンを選びます。



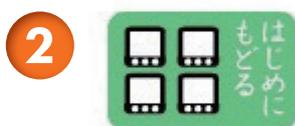
21

## 操作説明

その他の画面のボタン操作について説明します。



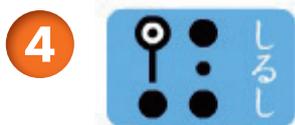
「おわり」を選ぶと、トレーニングを終了します。



「はじめにもどる」を選ぶと、メニュー画面に戻ります。



「もどる」を選ぶと、1つ前の画面に戻ります。



「しるし」を選ぶと、マグネットが表示されます。もう一度「しるし」を押すと、マグネットが非表示になります。



「よむ」を選ぶと、絵に合う語の音声を聴くことができます。



「どうさ」を選ぶと、絵に合う語の動作を見ることができます。



(拗音のみ)  
「さんかくシート」を選ぶと、拗音の構成を確認することができます。

※ **4**～**7** は、「らくらく」を選んだときに表示されます。

# 3

## 聴くトレーニング（特殊音節）

### 操作説明

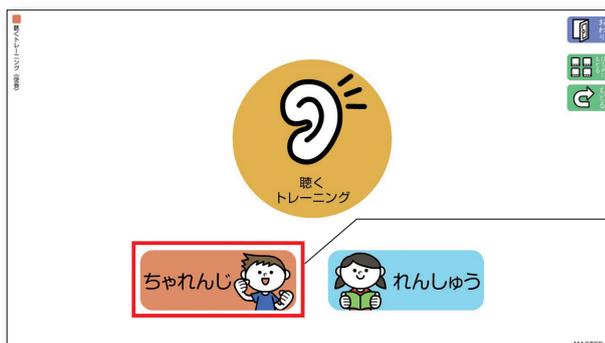
**1** トレーニングしたい特殊音節  
を選びます。  
(画面は「促音」の例)



**2** 「聴くトレーニング」を選びます。



**3** トレーニングを始めたいときは、「ちゃれんじ」を選びます。  
「れんしゅう」の流れは、P13・P14の  
**4 5 6** をご参照ください。



**4** 「らくらく」あるいは「どきどき」  
を選びます。



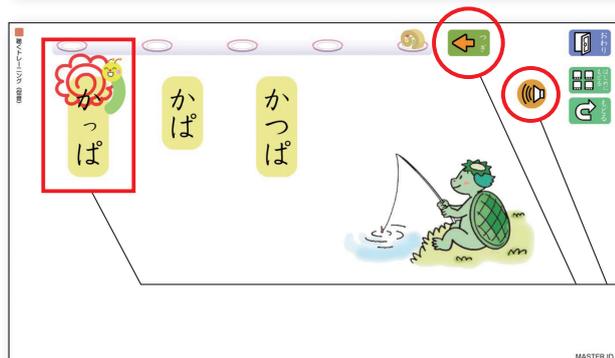
**5** チャレンジするステージを選びます。



**6** 音声を聴き、絵に合ったことばを選びます。正解すると花まるマークがつき、ケーキのアイコンが表示されます。

もう一度音声を聴きたいときは、「音声」ボタンを選びます。

「つぎ」ボタンを選びます。



**7** 問題を全問正解すると、「クリアー」と表示されます。

「つぎ」ボタンを選びます。



**8** 成績画面が表示されます。別の問題にチャレンジするときには「べつのステージへ」ボタンを選びます。

※成績画面の詳細については、P16・P17の17～21をご参照ください。



# 4 書くトレーニング（特殊音節）

## 操作説明

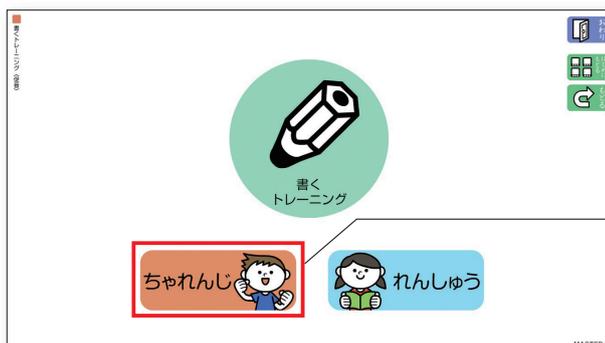
**1** トレーニングしたい特殊音節  
を選びます。  
(画面は「促音」の例)



**2** 「書くトレーニング」を選びます。



**3** トレーニングを始めたいときは、「チャレンジ」を選びます。  
「れんしゅう」の流れは、P13・P14の  
**4 5 6** をご参照ください。



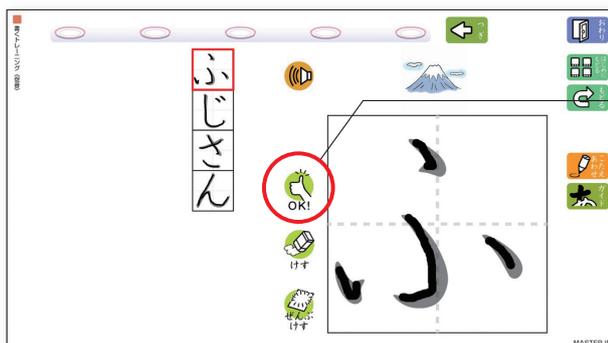
**4** 「らくらく」あるいは「どきどき」  
を選びます。



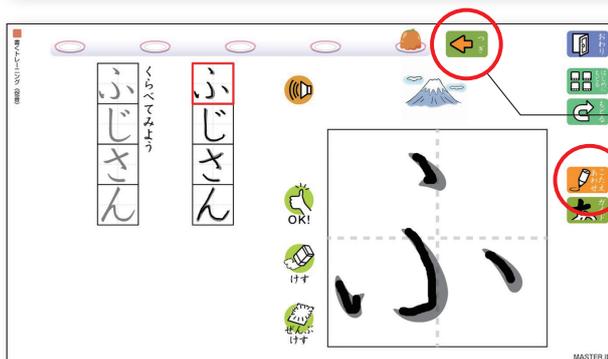
**5** チャレンジするステージを選びます。



**6** なぞり書きをします。最初の文字のなぞり書きができれば「OK」ボタンを選び、次以降の文字も同じようになぞり書きをします。



**7** すべての文字のなぞり書きができれば、「こたえあわせ」ボタンを選びます。なぞり書きしたものととの文字を比べてみます。



「つぎ」ボタンを選びます。

※筆順や文字そのものが正しいかどうかの正誤判定はしません。

**8** 問題を全問正解すると「クリアー」と表示されます。

※このトレーニングでは、1問ごとにすべての文字のなぞり書きをして「OK」ボタンを押したときのみ正解となります。



**9** 成績画面が表示されます。別の問題にチャレンジするときには「べつのステージへ」ボタンを選びます。

※成績画面の詳細については、P16・P17の17～21をご参照ください。



## 操作説明

- 1  ことばの音を聞く。
- 2  字をなぞり書きする。  
かく
- 3  文字のなぞり書きができれば、「OK」ボタンを押す。  
OK!
- 4  文字を1ストロークごとに消す。  
けす
- 5  文字をぜんぶ消す。  
ぜんぶ  
けす
- 6  ウスアミを段階ごとに消す。  
※「らくらく」のみについています。

# 5

## 促音トレーニング（特殊音節）

### 操作説明

1 「促音」を選びます。



2 「促音トレーニング」を選びます。



3 トレーニングを始めたいときは「ちゃれんじ」を選びます。操作方法がわからないときは、「れんしゅう」を選びます。「れんしゅう」の流れは、P13・P14の4 5 6をご参照ください。



4 「らくらく」あるいは「どきどき」を選びます。



**5** チャレンジするステージを選びます。



**6** 絵を見て、ことばのどこに促音を入れればよいかを考え、当てはまる場所を選びます。音声ボタンを選ぶと、音を聴くことができます。



**7** 「こたえあわせ」ボタンを選びます。正解すると花まるマークがつき、ケーキのアイコンが表示されます。

「つぎ」ボタンを選びます。



**8** 問題を全問正解すると、「クリアー」と表示されます。

「つぎ」ボタンを選びます。



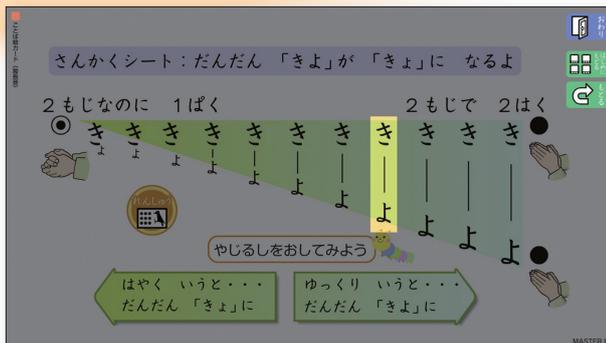
**9** 成績画面が表示されます。別の問題にチャレンジするときは、「べつのステージへ」ボタンを選びます。

※成績画面の詳細については、P16・P17の17～21をご参照ください。



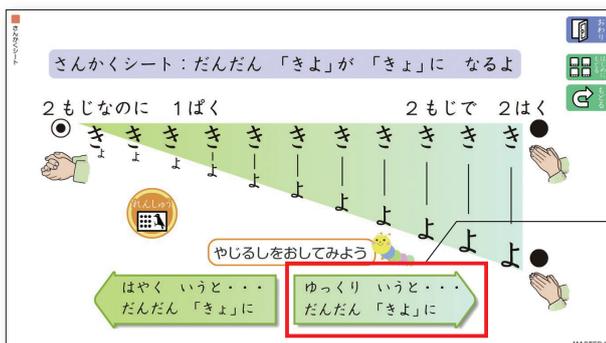


**6** 「き」と「よ」の2つの音が、だんだんと1つになり「きよ」という1つの音になることを音声で確認します。



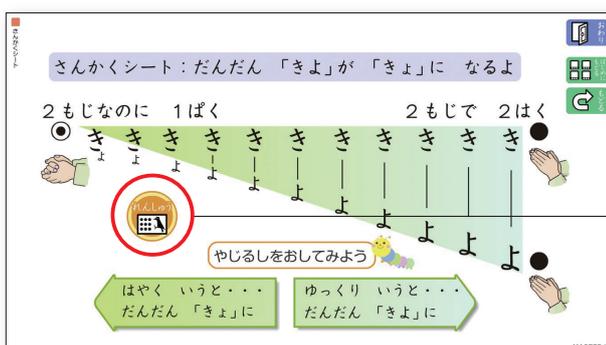
**7** 『ゆっくりいうと…だんだん「きよ」に』を選びます。

「きよ」という1つのことばが、だんだんと「き」と「よ」という2つのことばに変化することを音声で確認します。



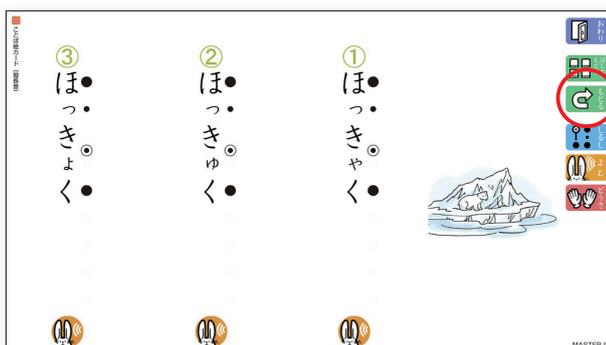
**8** 「れんしゅう」ボタンがあるときは、拗音の「ことば絵カード」を1回だけ実行することができます。

「れんしゅう」ボタンを選びます。

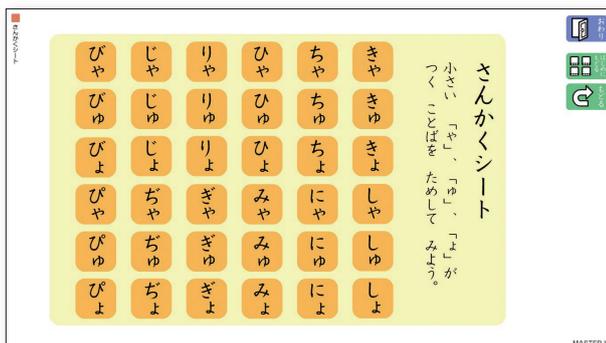


**9** 「ことば絵カード」を練習します。

「もどる」ボタンを選びます。



**10** 元のさんかくシートの画面に戻ります。

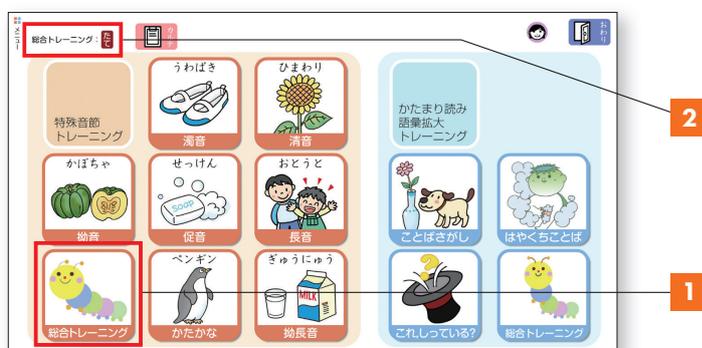


# 7 総合トレーニング (特殊音節)

## 操作説明

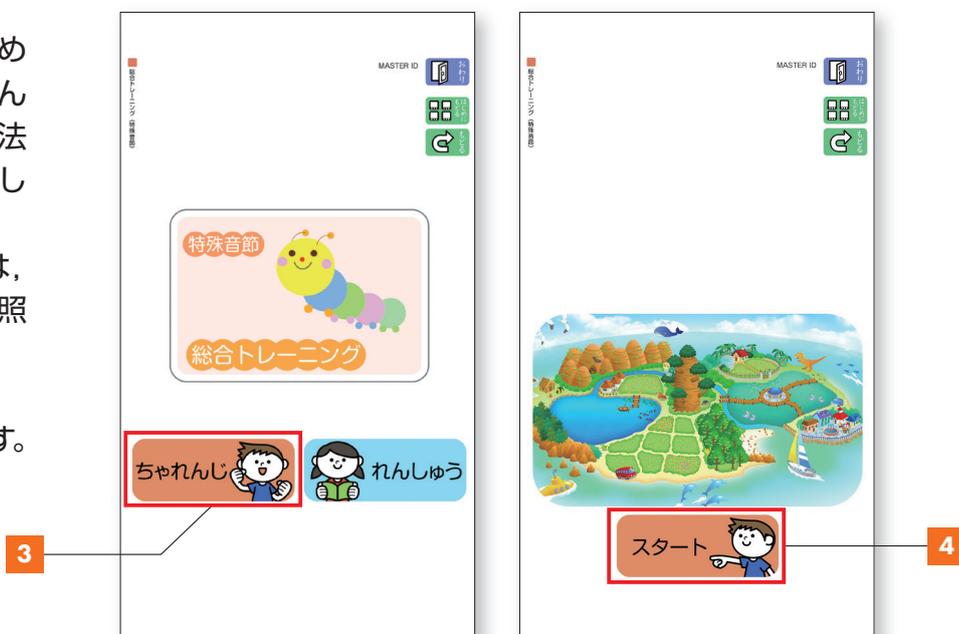
1 「総合トレーニング」を選びます。

2 ここではタブレットを縦方向にして問題を解きます。縦方向にしたいときは、メニュー画面左上にある「総合トレーニング たて」を選び、「よこ」にしてから、総合トレーニングを選びます。



3 トレーニングをはじめたいときは、「ちゃれんじ」を選びます。操作方法がわからなければ、「れんしゅう」を選びます。「れんしゅう」の流れは、P13・P14の4 5 6をご参照ください。

4 「スタート」を選びます。



5 チャレンジするステージを選びます。

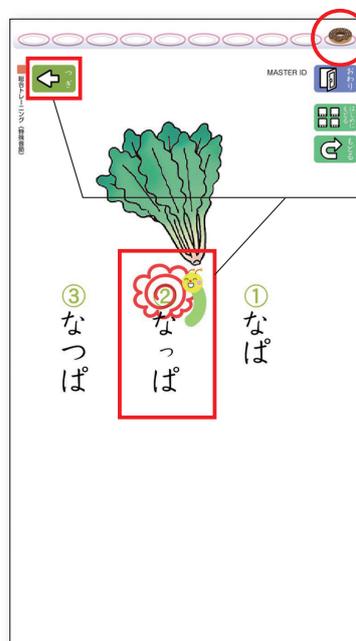
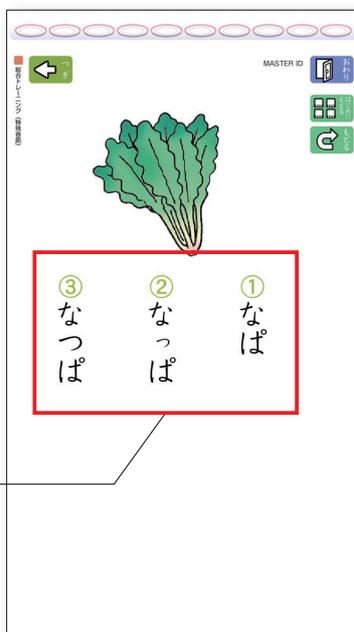
6 カウントダウン画面が表示されます。



**7** 問題が表示されるので、正しいと思う答えを選びます。

**8** 正解すると花まるマークがつき、ドーナツのアイコンが表示されます。

「つぎ」ボタンを選びます。



**9** 問題を全問正解すると、「クリアー」と表示されます。

「つぎ」ボタンを選びます。

**10** 成績画面が表示されます。

別の問題にチャレンジするときは、「べつのステージへ」ボタンをえらびます。

※成績画面の詳細については、P16・P17の17～21をご参照ください。



# 8

## ことばさがし (かたまり読み・語彙拡大)

### 操作説明

1 「ことばさがし」を選びます。



2 操作方法がわからなければ、「れんしゅう」を選びます。「れんしゅう」の流れは、P13・P14の4 5 6をご参照ください。



3 トレーニングを始めたいときは、「ちゃれんじ」を選びます。



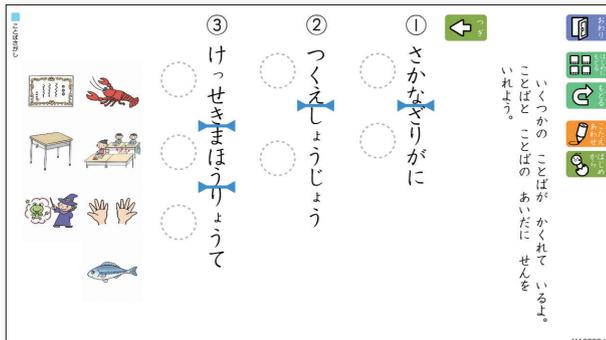
4 「らくらく」あるいは「どきどき」を選びます。



**5** チャレンジするステージを選びます。

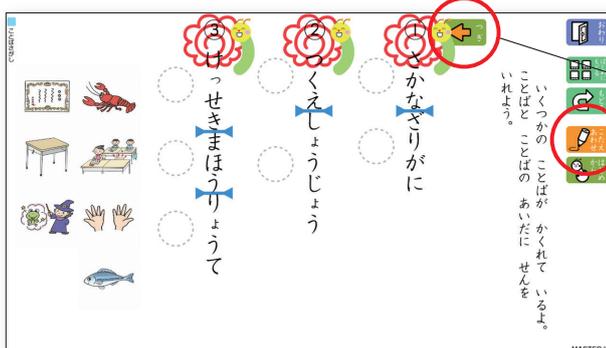


**6** ことばとことばの間を選ぶと、線が表示されます。間違えて選んだときは、もう一度線を選ぶと、線は消えます。



**7** 「こたえあわせ」ボタンを選びます。正解すると、花まるマークがつきます。

「つぎ」ボタンを選びます。



**8** 問題を全問正解すると、「クリアー」と表示されます。

「つぎ」ボタンを押します。



**9** 成績画面が表示されます。別の問題にチャレンジするときには、「べつのステージへ」ボタンを選びます。

※成績画面の詳細については、P16・P17の17～21をご参照ください。



# 9

## はやくちことば (かたまり読み・語彙拡大)

### 操作説明

1 「はやくちことば」を選びます。



2 操作方法がわからなければ、「れんしゅう」を選びます。「れんしゅう」の流れは、P13・P14の4 5 6をご参照ください。



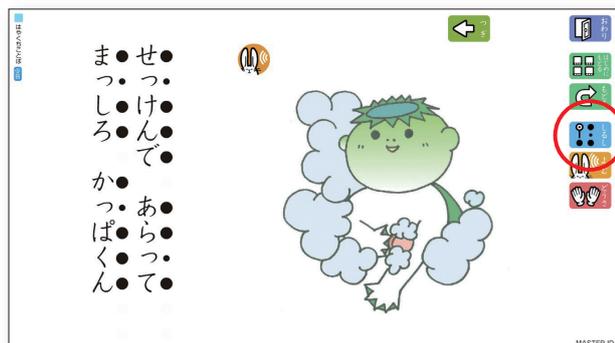
3 トレーニングを始めたいときは、「ちゃれんじ」を選びます。



4 トレーニングしたい「はやくちことば」を選びます。



5 「しるし」ボタンを選ぶと、マグネット(●や◎等のマーク)が非表示になります。

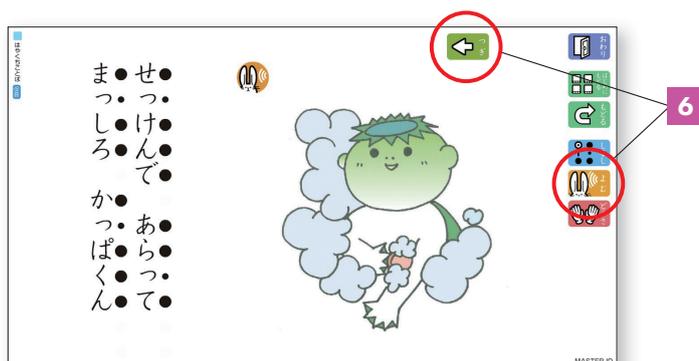




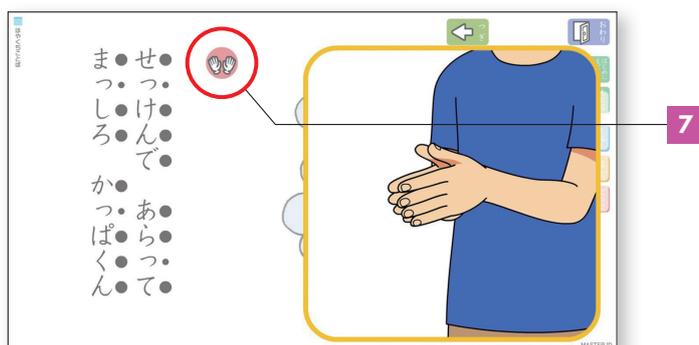
マグネットが非表示のとき、はやくちことばを読み上げるスピードを選ぶことができます。



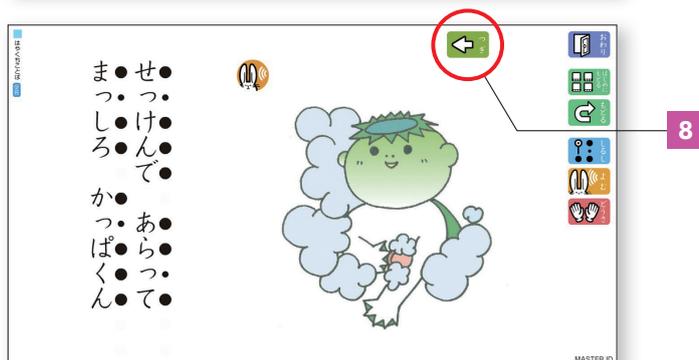
6 「よむ」ボタンを選ぶと、はやくちことばが読み上げられます。



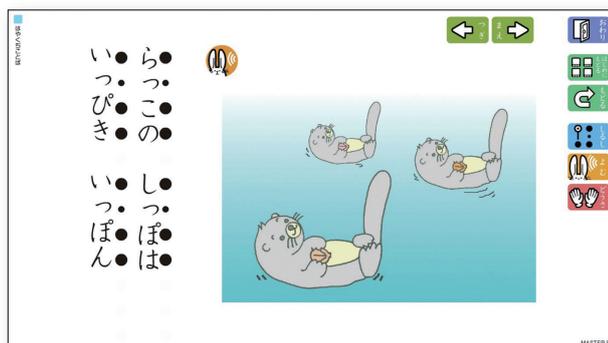
7 「どうさ」ボタンを選ぶと、はやくちことばの動作がアニメーションで表示されます。



8 「つぎ」ボタンを選びます。



9 次のはやくちことばが表示されます。



# 10

## これ,知っている? (かたまり読み・語彙拡大)

### 操作説明

1 「これ,知っている?」を選びます。



2 操作方法がわからなければ、「れんしゅう」を選びます。「れんしゅう」の流れは、P13・P14の4 5 6をご参照ください。



3 トレーニングを始めたいときは、「ちゃれんじ」を選びます。



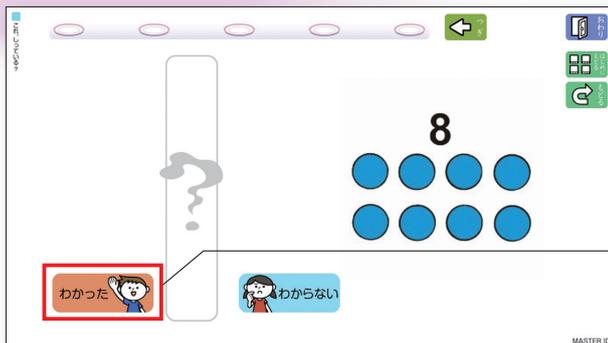
4 「らくらく」あるいは「ドキドキ」を選びます。



5 チャレンジするステージを選びます。

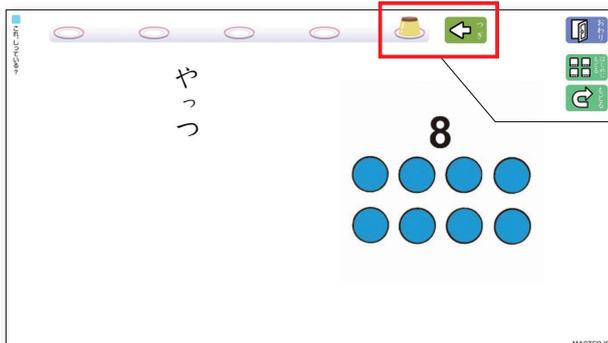


**6** 絵を見てあてはまることばがわからなかったら、「わかった」ボタンを選びます。  
(画面は「らくらく」の例)



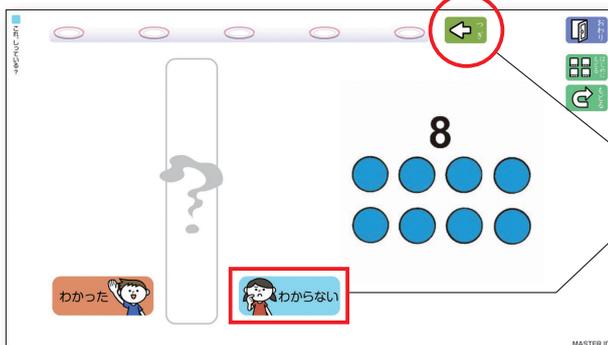
6

**7** 正解が表示され、プリンアイコンが表示されます。



7

**8** わからない場合は、「わからない」ボタンを選びます。音声を聴くことができます。  
「わかった」ボタンを選ぶと、画面の上部にプリンアイコンが表示されます。



8

「つぎ」ボタンを選びます。

※このトレーニングでは、「わかった」を選べば正解になります。

**9** 問題を全問正解すると、「クリアー」と表示されます。



9

「つぎ」ボタンを選びます。

**10** 成績画面が表示されます。別の問題にチャレンジするときは、「べつのステージへ」ボタンを選びます。



10

※成績画面の詳細については、P16・P17の17～21をご参照ください。

# 11

## 総合トレーニング（かたまり読み・語彙拡大）

### 操作説明

1 「総合トレーニング」を選びます。

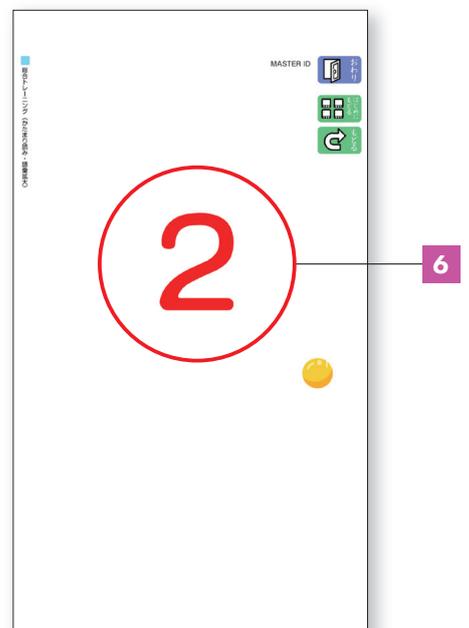
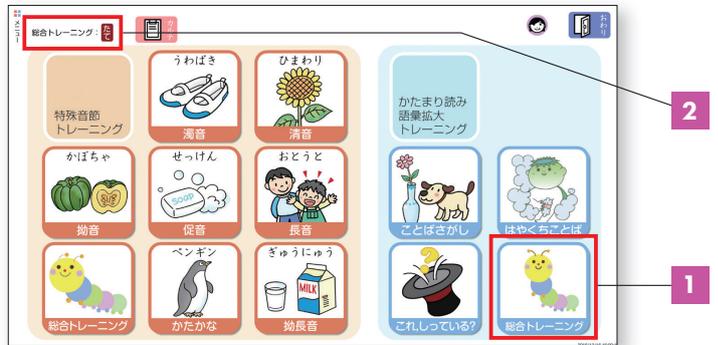
2 ここではタブレットを縦方向にして問題を解きます。縦方向にしたいときは、メニュー画面左上にある「総合トレーニング たて」を選び、よこにしてから、総合トレーニングを選びます。

3 トレーニングをはじめたいときは、「ちゃれんじ」を選びます。操作方法がわからなければ、「れんしゅう」を選びます。「れんしゅう」の流れは、P13・P14の4・5・6をご参照ください。

4 「スタート」を選びます。

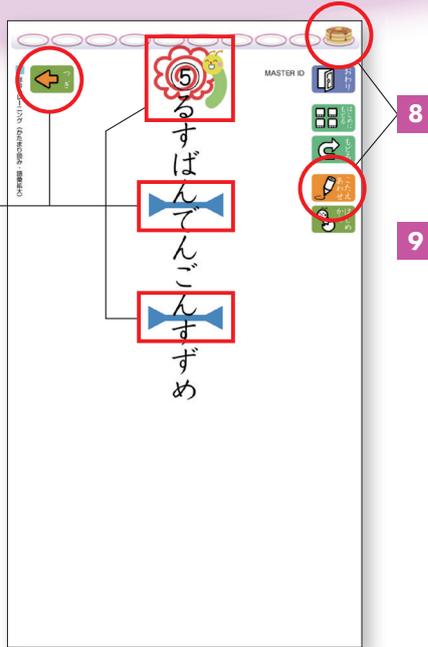
5 チャレンジするステージを選びます。

6 カウントダウン画面が表示されます。





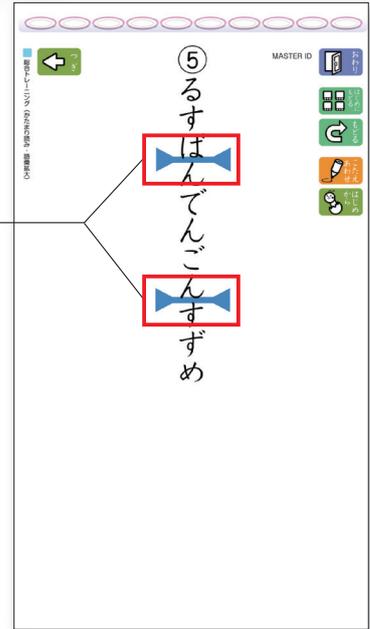
**7** 問題が表示されます。



**8** ことばとことばの間に線を入れます。

二本線を入れると、正誤判定します。正解すると、花まるマークがつき、上部にケーキのアイコンが表示されます。

「つぎ」ボタンを選びます。



**9** 答えがまちがったときは、何回でも線を入れることができます。

**10** 問題を全問正解すると、「クリアー」と表示されます。

「つぎ」ボタンを選びます。



**10**

**11** 成績画面が表示されます。

別の問題にチャレンジするときは、「べつのステージへ」ボタンをえらびます。

※成績画面の詳細については、P16・P17の**17**～**21**をご参照ください。



**11**

# 12

## キャラクターの成長について

児童のモチベーションを維持するため、下表のトレーニングの各条件をクリア（コンプリート）するごとに、島の中央の木にいるキャラクター（芋虫）が成長します。「らくらく」「どきどき」両方があるトレーニングの場合は、どちらかをクリアしていけば、成長が進みます。

トレーニング名	条件
ことば絵カード	すべての特殊音節を10ステージ全問クリア
聴くトレーニング	すべての特殊音節を10ステージ全問クリア
書くトレーニング	すべての特殊音節を10ステージ全問クリア
促音トレーニング	10ステージ全問クリア
ことばさがし	10ステージ全問クリア
これ、知っている？	10ステージ全問クリア
総合トレーニング（特殊音節）	10ステージ全問クリア
総合トレーニング（かたまり読み・語彙拡大）	10ステージ全問クリア

★キャラクターの成長の様子は、下記の通りです。

### トレーニングを1つコンプリート

**1** 芋虫キャラが「わあい！ディランにせいちょうしたよ！」というメッセージを出して木を1つ上ります。



トレーニングを2つコンプリート

**2** 芋虫キャラが「わあい!トリリンにせいちょうしたよ!」というメッセージを出して木を1つ上ります。



トレーニングを3つコンプリート

**3** 芋虫キャラが「わあい!テトランにせいちょうしたよ!」というメッセージを出して木を1つ上ります。



トレーニングを4つコンプリート

**4** 芋虫キャラが「ペンリンにせいちょうしたよ!」というメッセージを出して木を1つ上ります。



トレーニングを5つコンプリート

**5** 芋虫キャラが「わあい!ヨウランになったよ!」というメッセージを出してサナギになります。



トレーニングを6つコンプリート

**6** チョウになり、「やったあ チョウになれたよ!ありがとう!」というメッセージを出して木のいちばん上に上ります。



トレーニングを8つコンプリート

**7** チョウが、「君も読み名人になれたね」というメッセージを出して賞状が表示されます。



**8** 賞状が消えた後、チョウが木の上から飛んでいきます。



# 13 カルテ

本トレーニングには、指導者や児童が各トレーニングの進捗率/正解率を確認することができる「カルテ」機能が用意されています。

## 操作説明

指導者がログインして、児童の学習の進捗状況などを確認する方法は、以下の通りです。

**1** 「カルテ」 ボタンを押します。



**2** 画面上で、学年ごと、クラスごと、児童ごとのカルテを表示することができます。



**3** 一番左の「全て」の右側の下向き矢印を押し、プルダウンメニューを表示させ、該当する学年を選びます。



**4** 真ん中の「全て」の右側の下向き矢印を押し、プルダウンメニューを表示させ、該当するクラスを選びます。



4

**5** 一番右側の「全て」の右側の下向き矢印を押し、プルダウンメニューを表示させ、該当する児童を選びます。



5

**6** 「選択」ボタンを押すと、選択した児童のカルテが表示されます。



6



**7** 「総合」ボタンを押すと、該当する児童の「よみめいじん(デジタル版)」の総合点の推移を表示することができます。



総合ボタン

児童の総合点の月別の推移が表示され、1stステージ、2ndステージ、3rdステージの基準と比較することができます。

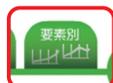
- テスト①とテスト②の総合点
- テスト①(絵にあうことばさがし)
- テスト②(3つのことばさがし)



7



**8** 「要素別」ボタンを押すと、該当する児童の特殊音節別のテスト結果を表示することができます。指導者は、児童の特殊音節別の得点の推移を確認することができます。

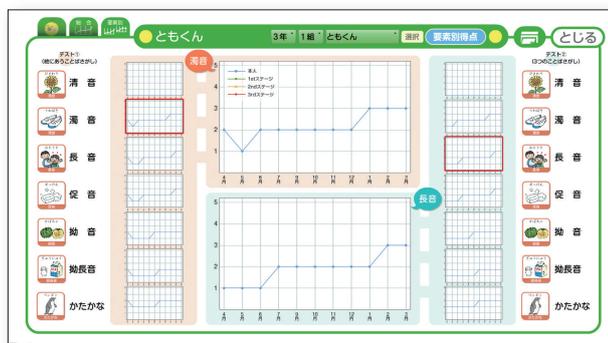


要素別ボタン

- テスト①(絵にあうことばさがし)
  - テスト②(3つのことばさがし)
- の清音、濁音・半濁音、長音、促音、拗音、拗長音、カタカナの月別推移



8



# 操作説明

児童が自分の学習の進捗状況、達成度などを確認する方法は、以下の通りです。

1 「カルテ」 ボタンを押します。



2 該当する児童の学習の進捗状況、理解度などを確認します。



3 終了するときは「とじる」 ボタンを押します。



# 14

## 児童の「自習モード」

MIMデジタル版では、児童のつまずきの内容を自動分析して、つまずきに対応したトレーニングを指示する「自習モード」を利用することができます。自習モードを実行するには、児童のIDで入ります。

### 操作説明

1 児童のアイコンを押します。



2 ガイドのキャラクターが登場し、児童にとって、習得できていないと考えられる特殊音節を示します。この例では、「清音」を学習するように促します（「清音」がブルクします）。



3 特殊音節を選び、学習する内容（この例では「ことば絵カード」）を選びます。



**4** 「らくらく」コースが選択されているので、「らくらく」ボタンを押し、学習します。

※自習モードでは、児童がつまずいている可能性の高い課題が示されるので、「らくらく」ボタンのみ表示されます。



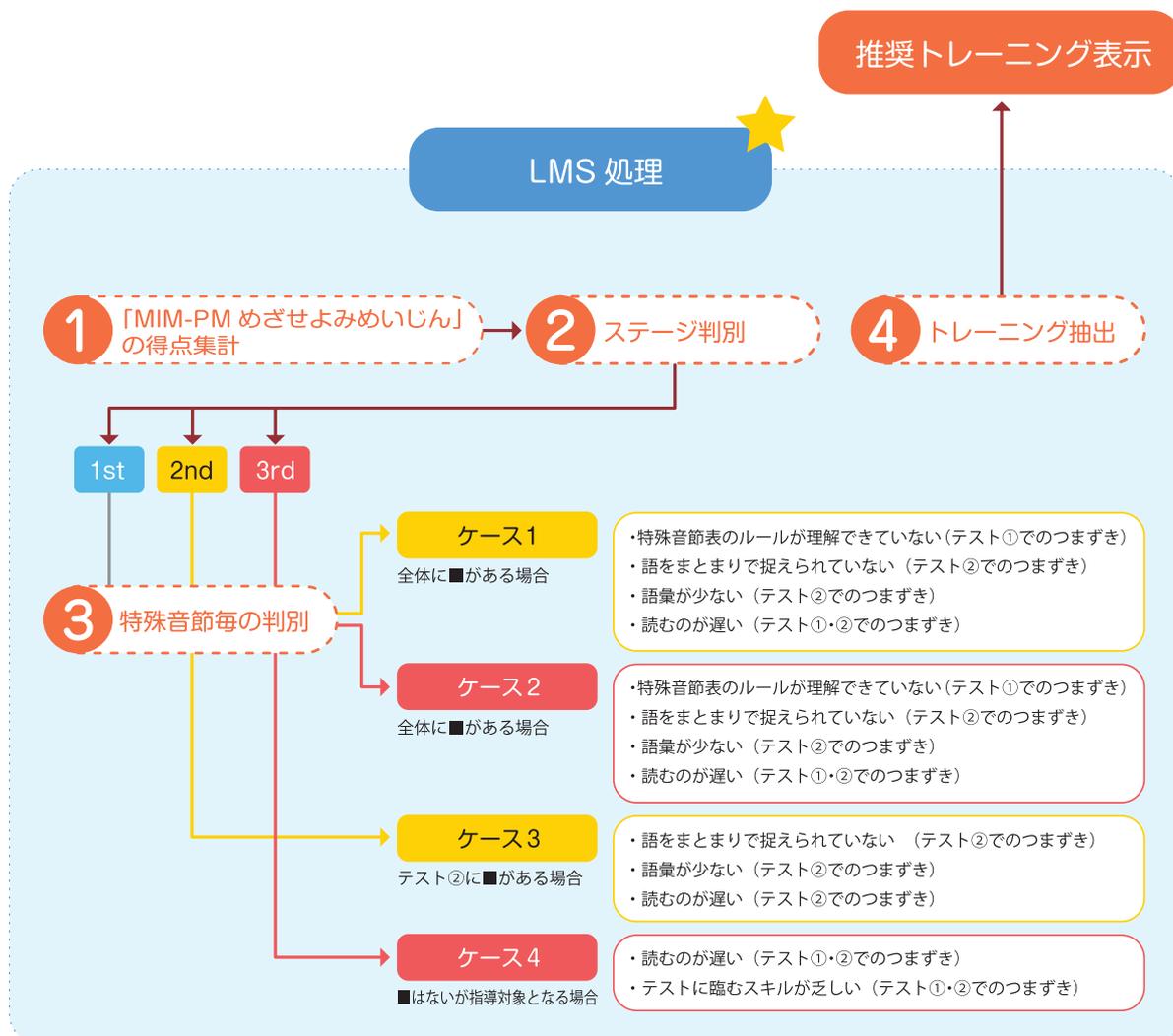
**5** 学習したいステージを選びます。あとの流れは、自習モード以外と同じです。



参考 「自習モード」における指導内容の選択について

「MIM-PM (めざせよみめいじん)」の得点は自動的に集計され、学年ごとの「標準得点表」にもとづいて必要なステージ指導の判定がなされます。

必要なステージ指導段階 (1st ~ 3rd) が判定された後、ステージ指導段階の情報および個別の配慮計画においてテスト①またはテスト②に付された「■」(つまずきを示す印) についての情報をもとに、つまずきの傾向を4つのケースに分類します。これらの結果をもとにそれぞれの子どもに合ったトレーニング(「特殊音節」/「語彙の拡大・かたまり読み」)が提供されます(以下の図)。



# 15

## 児童の学習履歴のクリア

### 操作説明

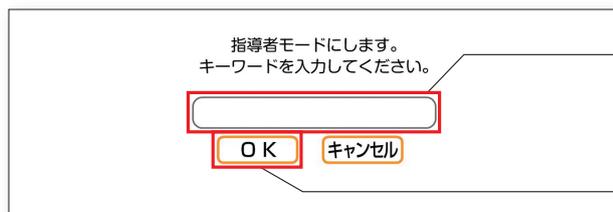
**1** 「どちらか えらびましよう」の画面で、MIMトレーニングのアイコンを選びます。



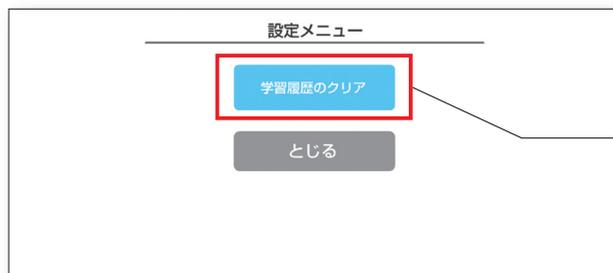
**2** 「指導者のアイコン」を選びます。



**3** 指導者モード確認画面で、キーワードを入力し("teacher"), 「OK」ボタンを選びます。



**4** 「設定メニュー」の「学習履歴のクリア」ボタンを選びます。



**5** 学習履歴をクリアしたい児童IDのチェックボックスにチェックを入れます。「全てを選択」にチェックを入れると、登録された児童IDの履歴全てがクリアされます。

確認し、「履歴をクリア」ボタンを選びます。マスターIDは、「99999」の履歴を表します。

学習履歴をクリアします。

010108	sakura	<input checked="" type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>

全てを選択     マスターID

学習履歴をクリアしたい児童IDのチェックボックスをチェックしてください。全てを選択をチェックすると登録された児童IDの履歴全てがクリアされます。マスターIDの履歴をクリアしたい場合は、マスターIDのチェックボックスをチェックしてください。

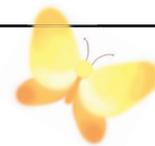
  

※児童IDが多数登録されていて一画面に収まりきれない場合、タブレット端末では、縦方向にフリック（指を画面に置き、縦方向にさっとはじく）すると一度に数人分スクロールすることができます。



---

## 多層指導モデルMIM『読みのアセスメント・指導パッケージ』 デジタル版ガイドブック



編著者 海津亜希子

編集協力 杉本陽子

発行 株式会社Gakken  
東京都品川区西五反田2-11-8

発行人 甲原 洋

制作協力 株式会社工画堂スタジオ (デザイン 鹿島一寛), 株式会社ユーミックス

●この教材に関する各種お問い合わせ先

教材の内容については、下記サイトのお問い合わせフォームよりお願いします。

<https://www.corp-gakken.co.jp/contact/>

編集内容については Tel 03-6431-1293 (編集部直通)

在庫、不良品 (乱丁・落丁) については Tel 03-6431-1152 (事業部直通)

上記以外のお問い合わせは Tel 0570-056-710 (学研グループ総合案内)

©Gakken 2024 Printed in Japan

●本書の無断転載、複製、翻訳を禁じます。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用であっても、著作権法上、認められておりません。

202405



トレーニング

